

第2回外濠市民塾 実施レポート

日時：9月8日（日）13:00～
場所：法政大学 スタジオHAL

- 【1】実施概要
- 【2】セミナー
- 【3】座談会
- 【4】ワークショップ
- 【5】制作物
- 【6】アンケート

実施要項

日時：9月8日（日）13:00～16:30

場所：法政大学 市谷田町校舎 スタジオHAL

1) セミナー1 講師：高橋賢一（法政大学名誉教授）

「外濠地域のまちの特徴とその可能性」

2) セミナー2 講師：神谷 博（法政大学工学部兼任講師）

「江戸の水循環を踏まえた外濠と玉川上水の再生」

3) 座談会

司 会：福井恒明（法政大学教授）

登壇者：高橋賢一（法政大学名誉教授）

神谷博（法政大学工学部兼任講師、(株)設計計画水系デザイン研究室代表取締役）

山本坦（紀尾井町町会副会長）

湯浅真奈美氏（ブリティッシュ・カウンシル アーツ部長）

4) ワークショップ

進 行：廣田幸司（DNP）

参加状況

- 参加者：53名（内講師、学生、スタッフ14名）

スタッフ・協力者

- 外濠市民塾実行委員会

法政大学：陣内秀信教授、福井恒明教授

高道昌志院生、小松妙子教育技術員、飯田裕磨院生、猪狩智大院生、榎本直生院生

DNP : 亀田和宏、廣田幸司、滝川芳男、関根陽子

- 協力

法政大学：セミナー講師 高橋賢一名誉教授、神谷博兼任講師

ワークショップファシリテータ

小松妙子教育技術員、飯田裕磨院生、〇〇〇〇〇〇（法政大学）

亀田和宏、関根陽子（DNP）

エコ地域デザイン研究所

DNP : ソーシャルイノベーション研究所

実施要項

開催時間：13:00～13:10 法政大学エコ地域デザイン研究所所長 陣内秀信教授より冒頭挨拶
13:10～13:40 法政大学デザイン工学部 高橋賢一名誉教授 講演
13:40～14:10 法政大学デザイン工学部 神谷博兼任講師 講演
司会：福井先生（法政大学）
場 所：法政大学 市谷田町校舎 スタジオHAL

セミナーの様子



陣内教授 冒頭挨拶



高橋先生 レクチャー
「外濠が作る水辺のまち、その可能性」



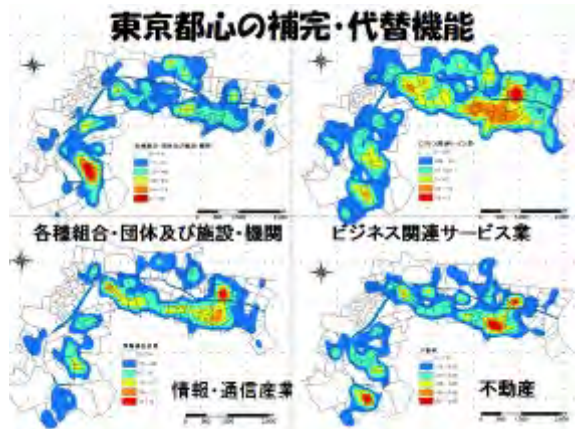
神谷先生 レクチャー
「江戸の水循環を踏まえてた外濠と玉川上水の再生」

セミナー要旨

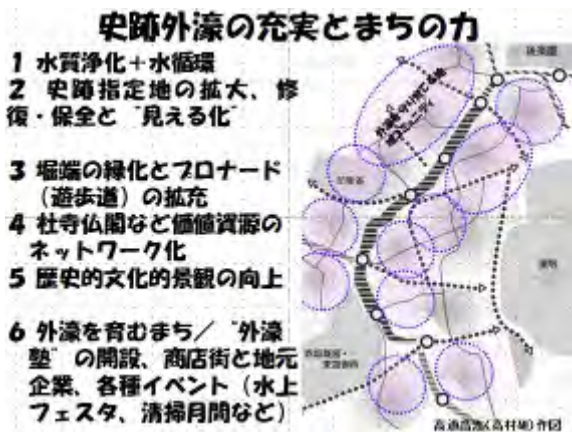
高橋先生 レクチャー「外濠が作る水辺のまち、その可能性」



- 外濠地域は人口分布を見ると麹町台地、新宿台地を中心に居住地区がかなり残っている。
- 戦後経済成長期では、新宿、池袋、渋谷などが都市化していったのに対し、外濠地域は独自の発展の仕方をしていった。
- 大学、学校、教育関連が多く立地し、出版、印刷、書籍などの産業も集まっている。



- 神社、仏閣なども多く残っており、東京都心部の補完機能を果たしていた。
- これらの元は江戸時代明暦の大火を機とする町の再配置、明治の幕府用地の公収などで形作られていった。
- 独自の発展、逆に市街地整備されなかったことが旧町名などが多く残るなど、この地域の特徴となっており、地域財産として活かしていくことが必要。



- そのためにすぐにでも始めないといけないのが、1, 水の浄化と、2, 史跡の見える化 である。
- 水が綺麗にならないと関心もわかない。水の豊かな水都東京として世界遺産に登録するぐらいの意気込みで考えて行きたい。
- 史跡については、住んでる人でさえ指定されていることを知らない人が多い。まずは見える化をしていくことが重要で、水が綺麗にならないと史跡を大切にしようという気運も出てこない。

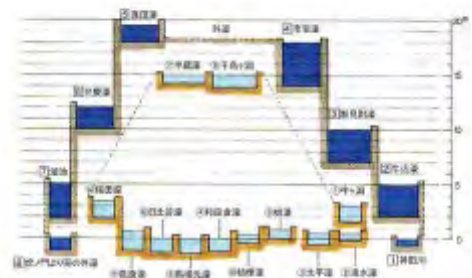


- 現在外濠は鉄道、道路、水空間など多面的な機能を持つ。そのため外濠の再生には個別のバラバラな施策ではなく、「環境・文化インフラ」といった新たな統括的概念による施策実施が必要である。
- 環境インフラをコアとする地域コミュニティと地域資源をネットワーク化する「歴史・エコ回廊」をつくっていきたい。



江戸水系模式図 (292頁)

- 玉川上水は水供給で大きな役割を果たしており、絶妙な測量で尾根伝いに用水網を通して、水供給を行っていた
- 江戸期にはこのように大きな視野で水環境が認識されていたが、大きな転換期となったのが昭和40年の玉川上水の通水停止である



水循環の保全と再生 499/1000

內濠·外濠断面図

- お濠の再生には、玉川上水を一番高位にある真田濠に水供給すれば、自然に水循環ができる仕組みになっている
- 行政も水循環基本法の成立に向けて動いているが、まだ成立していない。水循環の大きな枠組として早期の成立が望まれる
- 水循環の仕組は湧水の再生、水辺環境の整備など地域での文化の創造にもつながっている
- 源流の森林保全など課題も残されているが、水系全体が連携して課題解決に向けて行かないといけない

実施要項

開催時間：14:20～15:30

司 会：福井先生

登壇者：高橋先生、神谷先生、山本様、湯浅様

座談会の様子



座談会の要旨

【座談会の目的】（文中敬称略）

地元で外濠を見守ってきた愛着のある人の意見を聞く

その意見をワークショップのディスカッションにつなげる

Q:外濠との関わりを含めた自己紹介

（山本）紀尾井町出身78歳。生まれる前から外濠に守られて生きてきた。上智大グラウンドの水があった時代の記憶もある。現代の開発に関しても意見していきたい。

（湯浅）ブリティッシュカウンシルに勤務、中高が三輪田学園、大学が上智であったため、約10年外濠の周辺にいた。今はブリティッシュカウンシル（飯田橋）で18年勤務している

Q:講演会の感想や質問

（山本）水系の講演が貴重だった。オリンピックまでに水をきれいにしたい。2036年 外濠誕生400年102歳まで水に関わって生きていきたい。石垣が好き。石垣と水が生活の基盤の中に自然に入っていた。

（湯浅）仕事が英国の国際交流機関でアーツを担当、文化芸術をとおした街づくりの中で歴史、文化遺産の活用等仕事で関わってきた。外濠についてあまり考えてこなかったが、講演は歴史的文化遺産といった視点を持つ良い機会となった。長く住んでいる人の記憶や地域との関わりをアーカイブしていき、世代を超えた交流や歴史の検証ができればよいと思う。

Q:外濠は価値がありそうなのに、なぜ見過ごされてきたのか

（高橋）外濠が国指定の文化財であることはほとんどの人が知らない。地元の人でさえ国指定の文化財であることを知らなかった。汚くなってから知る人が減ったのではないかな。きれいな時代はみな興味をもっていただろう。

明治以降、行政が下水にしてもいいと言い出したことがきっかけではないか。汚染が進み、嫌いな川になった。それが親しみがなくなってしまった大きな原因だろう。だから水をきれいにすることが大事だと思う。



Q:たくさん活動されてきたのになかなか外濠きれいにならない原因は？

（山本）環境省がいけない。本当にお堀が好きだという発想がない。旗を振ってほしいのは環境省と東京都で、水をきれいにすることや、景観、歴史の継承などゼロベースで進めてほしい。お堀に囲まれている都市はないし、歴史的遺産を生かしてほしい。

若い人の将来にもつながるのではないかな。

Q:外濠の価値観が管理者や地元の人の中できちんと語られてこなかったのではないかな

（山本）千代田区での意識づけをして、お堀の生物に興味をもってほしい。学校教育機関でも意識づけをするべきであると、今までも発言してきた。



Q:法政の学生として、これまでの外濠に対する気持ちと、市民塾を聞いてできることはなにか？

（蓮見）環境を勉強している。前回市民塾で案内役をし、それを機会に勉強した。今回江戸時代からの名残があることを知り、気持ちが改まった。学生内にきちんと紹介する企画を大学規模でできたらと思う。



Q:ブリティッシュカウンスルにお勤めの人、来られる方と外濠の関係は？

（湯浅）地元との連携、法政ともDNPとも、特定との関わりしかない。地域との連携もまだ少ない。今後は、地元との連携を考えていけたらと思う。

組織内で紹介する機会はないかもしれないが、英国で都市のありかたについて考えていくとき、市民が協力したり、地域の愛着や歴史を深めていく機会があるので、学生との連携をして歴史を掘り起こしていき、それを機会に連携していけたらと思う。



Q:理科大は、地域と密着した活動が多い。外濠に関して、どういう価値観を投影するのか？

(宇野) 日本橋で10年ほど地域の活動してきた。水質や、関東大震災により都市構造が変わってきたことが影響して過疎化が起きている。

若者を連れて街に入っていくと若者も地域も化学反応する。ヨーロッパの若者は古い歴史のある地域で育ったため、非常に興味を持ち、仲良くなって、提案するようになる。理科大は公共的な空間を提供して知識を深めて地域貢献したい。施設を神楽坂に設けたので、活動していきたい。



Q:行政 後藤田さんへ 外濠のことに関わっていらっしゃるの、今の議論を聞いて思いを語ってください。

(後藤田) 環境省は内堀を管理している。外濠は、管理法がない。河川でもなければ公園でもない。海岸と同じ扱いでむずかしい。まして区界で、そういった街づくりは難しい。外濠を取り巻く地域の再発見が外濠の価値を考えるうえでとても大事である。



Q:最後にそれぞれ、外濠の価値としてみんなと共有したいことを話してください。

(山本) 紀尾井町の土手に喰違見附というところがあって、大久保利通が殺された年に、岩倉具視が外濠に落ちて助かったらしい。ホテルニューオータニの下に弁慶橋の下を通過、赤坂プリンスまでお堀がつながっているが、現在は水がきたないので、プリンスホテルができるまでに協力をいただいて、その水からきれいにしたい。

(湯浅) 三輪田の創設は明治35年で、800坪の土地に建てたのがはじめ。100周年のときに出した記念の本に、昭和22年の空襲で建て直したときのことが掲載されている。昭和40年代のお裁縫の時間の写真など、とても歴史ある学校であると感じる。学校が企業と連携して、今ない歴史的資産をアーカイブしていけたらと思う。

(神谷) 内堀と外濠が結構違う。内堀はきれいで観光客も多い。一方、外濠は埋められていたり、行政の管理がはっきりしない。行政が手を出しにくいところこそ、市民が手を挙げるべきであり、国交省など、上流から下流まで、水系の管理をしていかないといけない。本気で取り組みを、国を挙げてやろう！オリンピックも良い機会だろう。

(高橋) 1つは、外濠の価値の共有のために、見えない部分が多々あるので、見えるようにしようという活動を行政がまず行うべきだろう。このように石垣と土手などを見せる努力が必要である。

(山本) 外濠の地域に昔は町会が多かった。高齢化が進み、過疎化しているのが現状なので、若者の力をぜひ借りたい。エネルギーをお堀に注いでほしい。

上智大が運動場に使っている土地はマッカーサーが瓦礫で埋めてしまったが、外濠はつなげることに意味があるので、400年までに運動場を移してつなげてほしい。地元の人たちが外濠をきちんと理解して、活動してほしい。企業・大学も参加してほしい。

(福井) 熱い思いの人がそれぞれの場所にいるので、その力を合わせて、市民塾で手をつないでいけたらと思う。具体的な話はWSで。

実施要項

開催時間：15:40～17:30

司 会：廣田幸司（DNP）

ファシリテータ：小松妙子、飯田裕磨、猪狩智大、榎本直生（法政大学）
亀田和宏、関根陽子（DNP）

ワークショップ進行

【WSのお題】

「外濠の価値」をみんなで再発見しよう

【アイスブレイク】

チーム内で自己紹介、自己紹介カードをテーブルの上にある地図上に
関連付けてカードを置いていく

【グループディスカッション】

まとめて二軸整理をするアウトプットイメージを想定しながら、外濠の価値に
ついてグループでディスカッション
テーブルの上にA0大の地図を広げ、その地図を元にどこにどんな価値があったか
ポストイットを貼り付けていく

【ワークショップまとめ】

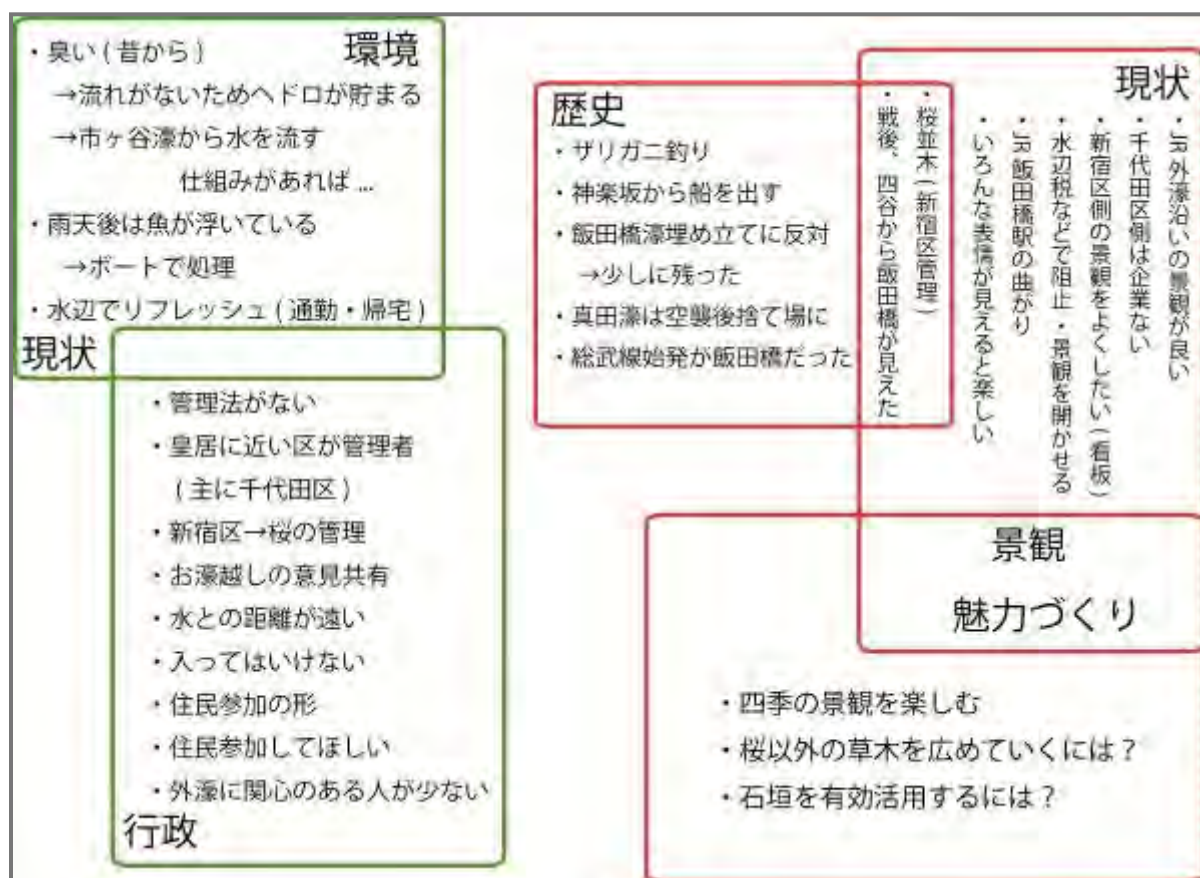
グループごとに軸となるキーワードを決めて、出てきた意見をプロットしていく

【グループ発表】

各グループのファシリテータが、出てきた意見を集約して発表

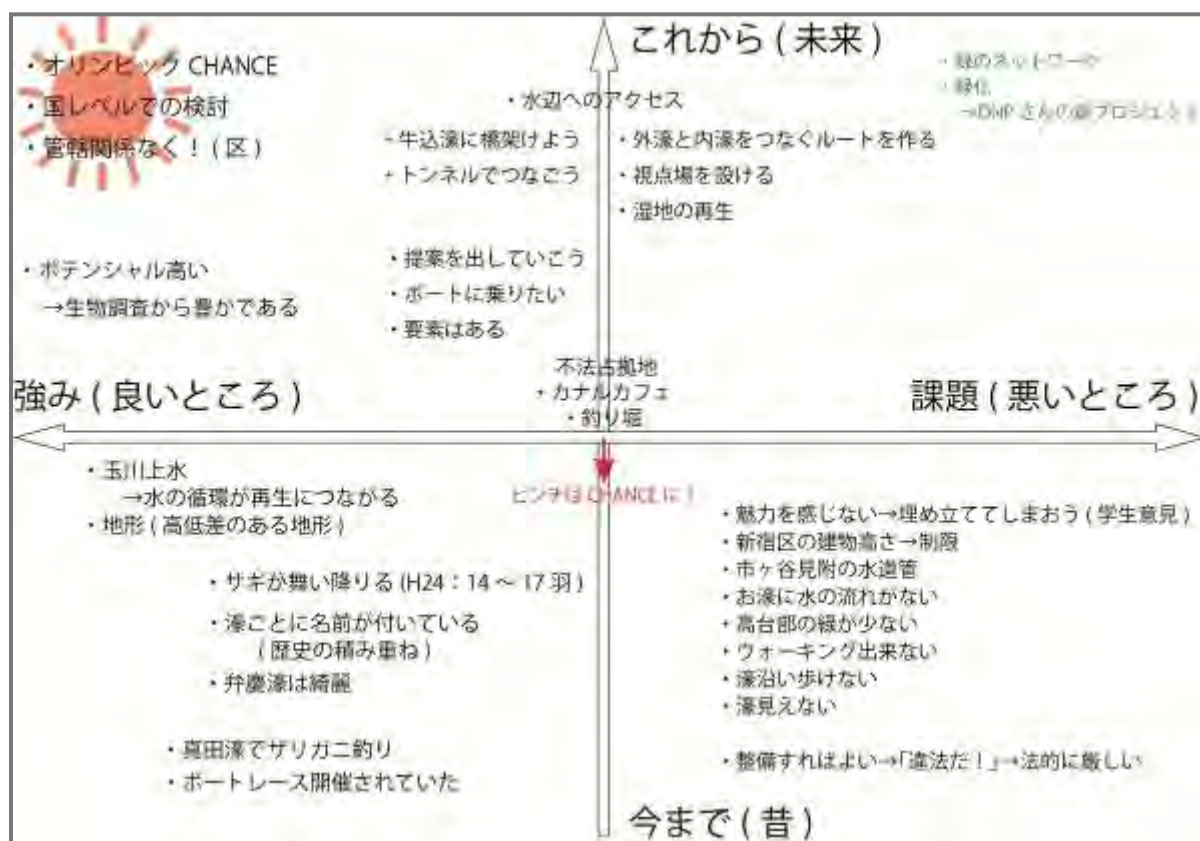


第1班



外濠の現状を環境と行政の点から深く考察し、魅力的な景観づくりのために様々な問題提議がされた。過去に「ザリガニ釣り」や「お濠埋め立て反対運動があった」など地元の貴重な意見が出されていた。課題として区の管轄に問題があることがわかった、地域住民の参加の形を作ることが必須であるなどの意見もあった。

第2班



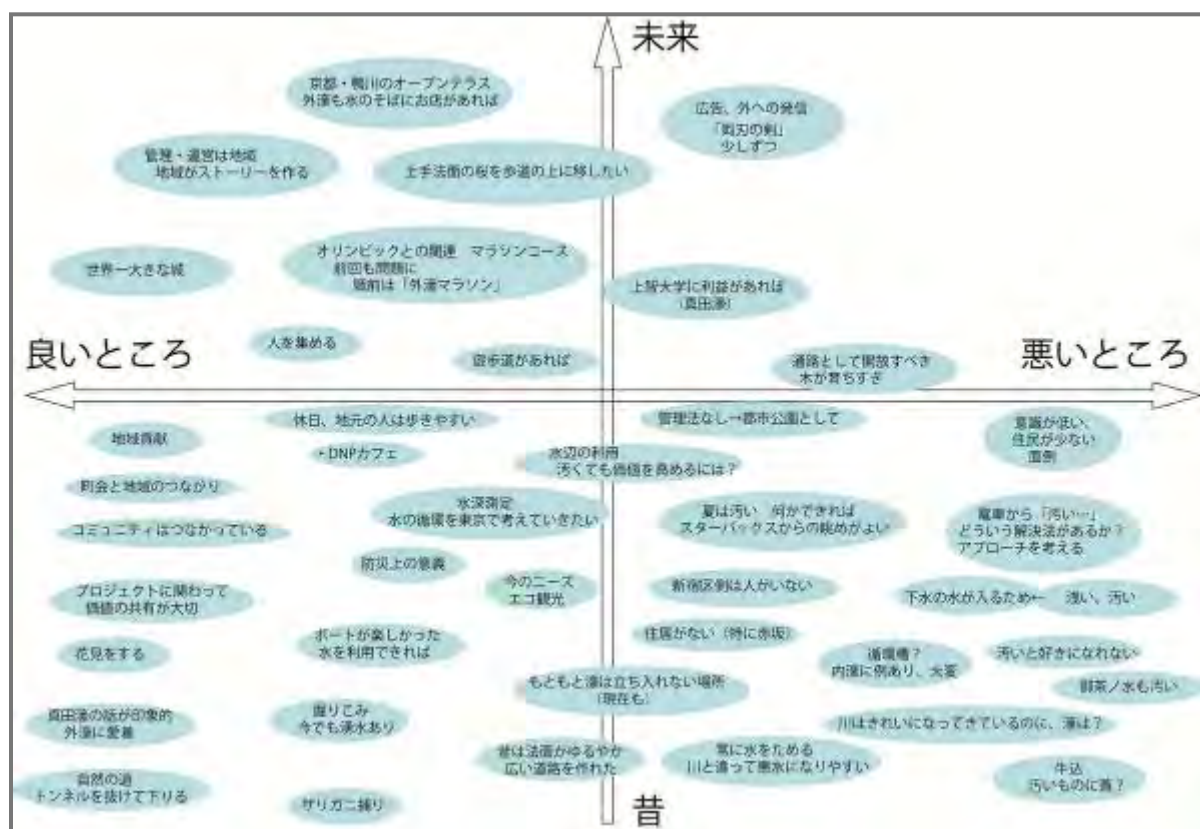
過去から未来にわたり、外濠の善し悪しの意見がたくさん出されていた。問題点を探りながら、「牛込濠に橋を架ける」ことや「トンネルを作ろう」などの具体的な提案も上がった。2020年のオリンピックを機会に、区の管轄などを取り払って、皆で外濠を元気づけようという考えに至った。

第3班



明治22年に始まり、現在、未来と時系列によって意見を区分しまとめていた。地域住民も含め多くの人が外濠を理解してないことから、水辺への回遊性を求める意見が多くだされていた。また、「落合浄水から水を流す」や「ビルは風と視線を通す造りにする」などといった具体的な意見も出されていた。

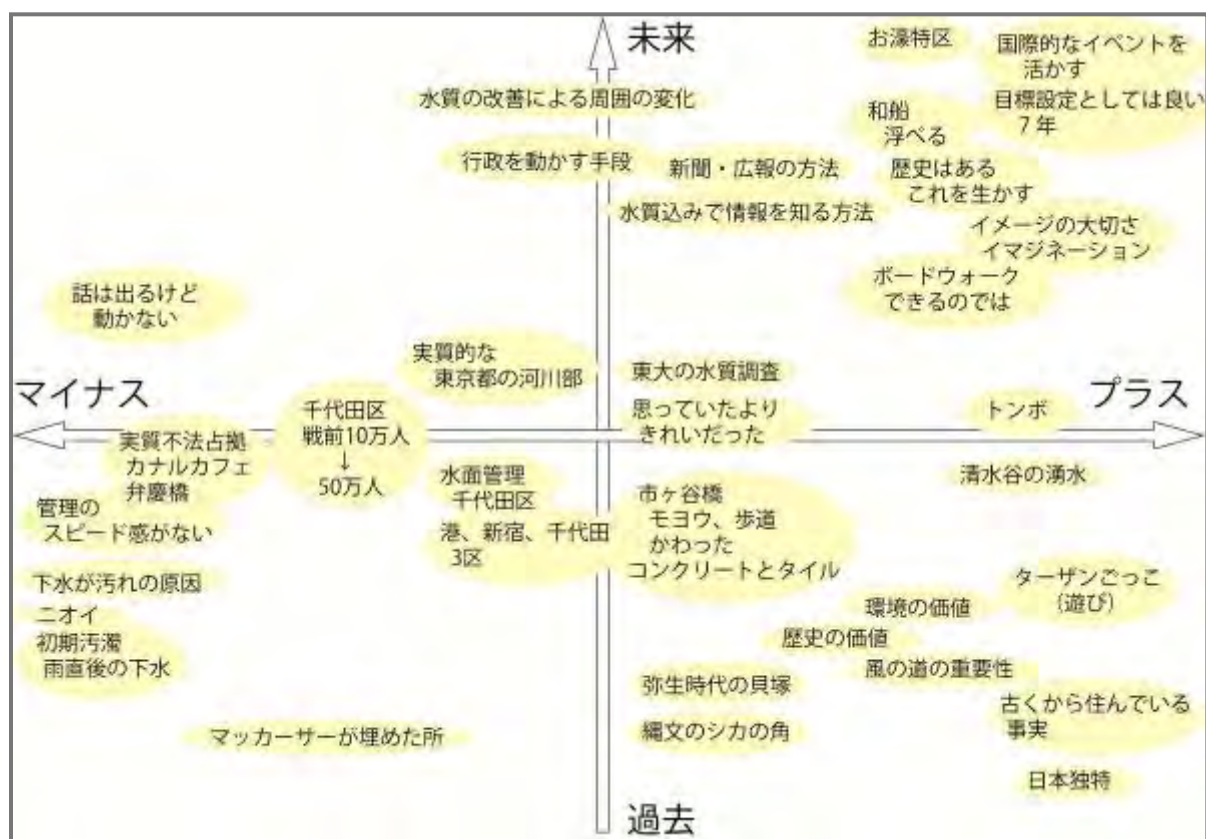
第4班



主に外濠の水質浄化と活用に関して話し合った。両者の関係については、活用への意欲を高めるためにも浄化が不可欠だという意見と、まず活用することが外濠への愛着を生み、水質浄化につながるといった意見があった。

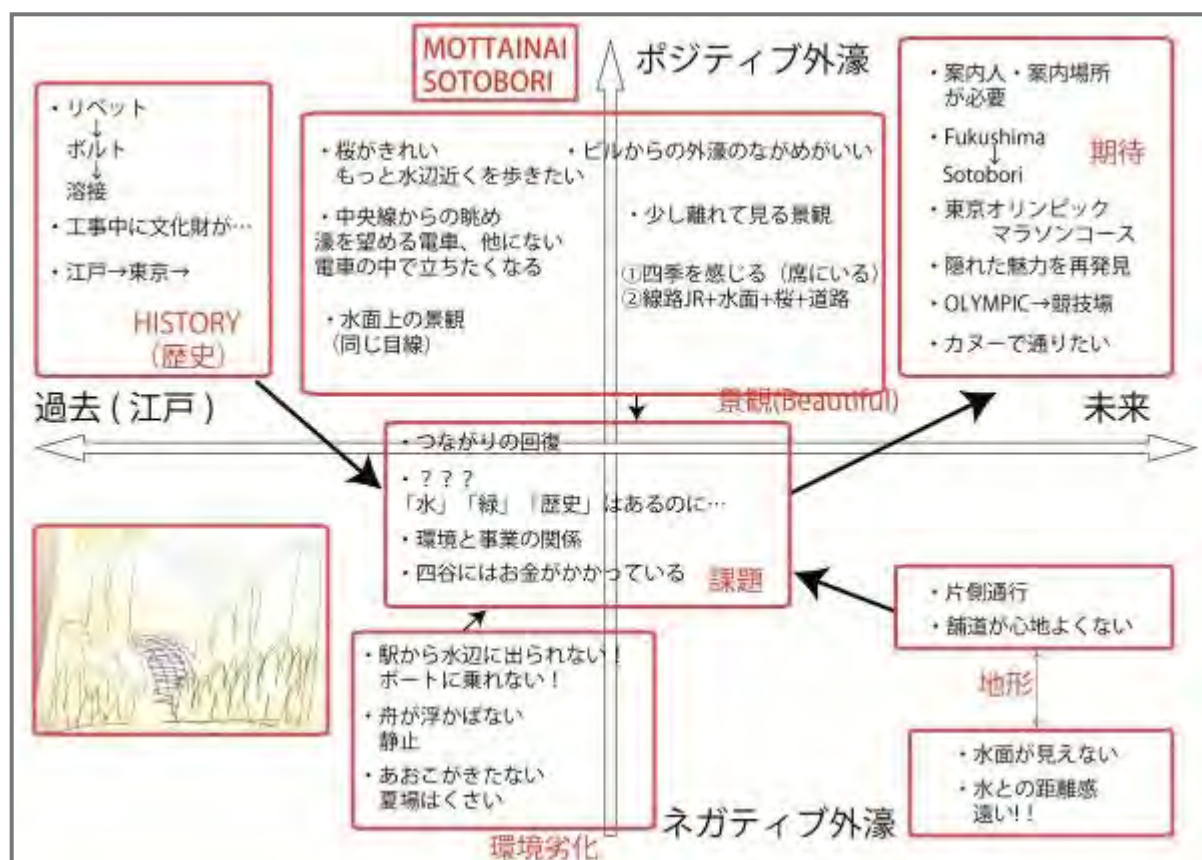
また、歴史を重視すると同時に、新しい活用方法を考え、地域で管理・運営するのが望ましいという意見が出た。

第5班



水質、水上の不法占拠、埋め立てなどを問題とする意見があった。プラスの面としては縄文時代から今に至るまでの歴史の価値、風の道や湧水といった環境の価値が挙げられた。将来は国際的なイベントも目標設定に活用し、歴史と「イメージネーション」を大切にしようという意見が見られた。

第6班



「MOTTAINAI SOTOBORI」という標題を掲げた。水・緑・歴史といったよいところがあるにも関わらず、舟を浮かべられない、水面が見えないなど水との距離が遠い点が課題だとする意見が多かった。一方、景観はよいという声があり、将来は東京オリンピックと連動して魅力を再発見できるのではと期待する意見も見られる。

印刷物



■ 外濠市民塾第2回イベント告知チラシ

仕様：A4版

用紙：コピー用紙 上質 46/55kg

部数：オンデマンド、PDFよりカラー出力

用途：イベント告知のばらまき用チラシ

Facebook ページ



■第2回イベント告知のためのサイト開設

Facebook状況

■「外濠市民塾」サイトへのアクセス状況

話題にしている人 21人：見ている人のタイムラインに表示

リーチ 579人：ページを見ている人の一日の延べ人数

- 前回よりリーチ数は減少しているが、閲覧者が固定化の方向に向いている傾向が出ている。
新しく閲覧する人を増やしていくことが課題



Q回収：35部

【回答まとめ】

Q:外濠との関わり

親水空間としてまちとの関わりがあった、歴史・遺産として都市の発展に関わっていたとの意見があった一方、ふれあいのなさ、関心のなさなど課題点もあげられた

Q:市民塾に参加後新たな発見

水質、水浄化に関する発見、歴史・多様な価値に関する発見など「まず外濠を知ること」という目標に関して満足いただける回答があった。
また今回ワークショップという形式をとったことで、多様な視点、意見が聞けた

Q:良かった点、改善点

多様な人が参加しいろんな立場からの意見の交換ができているのが良いというご意見が多く、多様なステークホルダ多様な世代が参加は有意義である、継続してほしいとの意見が多かった。
一方、今後に向けて実行できる道筋をつけるなどの課題提議もいただけた。

Q:してほしい企画

かなり多様なご意見が混ざっており、今後の企画に参考になる意見が聞けた。主なところでは、まち歩きの再開、他の団体との交流、歴史・遺構の深堀、いきものなど生物多様性、昔のくらしなどの意見が出された。

【アンケートからの所見】

- 外濠市民塾が当初から目指していた、多様な人の参加、他世代の参加という点について好評化をいただいております、一定の成果が出ていると考えられる
- 第1回まち歩き、第2回ワークショップと企画したが、セミナー+まちあるき、せみナー+ワークショップという組合せは効果的であると思われる
- 課題として今後に向けての具体性、方向性、着地点などの意見が出されており、今後検討していく必要がある

【チェックボックスアンケートの集計】

